駄知町
主張大会

今　伝えたい！

私たちの
明日への思い。

駄知小学校
駄知中学校

第四六回　少年の主張岐阜県大会

駄知中学校　三年　野々村美星さんが県・優秀賞を受賞されました

岐阜県内応募者数　一三・一二二七人　一七五校

令和六年六月九日　土岐市　青少年の主張大会　優秀賞

市内中学生の代表で（一名）東濃大会

令和六年七月四日　東　濃　少年の主張大会　最優秀賞

東濃地区中学生の代表で（三名）県大会

令和六年八月二日　岐　阜　少年の主張岐阜県大会（県下十七名）優秀賞

親の大切さ

駄知小学校　六年　　河本　桃亜

「お母さん、いつもありがとう。」

という一言を言えていますか。自分の親に感謝をしていますか。わたしは、自分の親に感謝の気持ちをもつといいと思います。

以前は、わたしが帰るとお母さんが家で待っていてくれていました。しかし、お母さんは新しい会社で正社員になり、六時ごろまで帰ってこなくなりました。そのため、わたしも家事を今までよりも多く手伝うようになりました。いつも「大変だな」と思いながら家事をしていますが、半分も手伝っていません。お母さんの方が大変なのに、全て終わらせたら、必ず、

「ありがとう。」

と言い、ほめてくれます。その一言でわたしはとてもうれしくなります。わたしは、ごはんを作ってもらっても、「ありがとう。」と言ったことが少ししかありません。これから意識していこうと思いました。

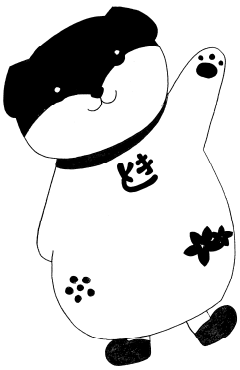
お母さんは、毎朝、会社に行く前に洗たく、そうじをしています。二時間ぐらいしか時間がないのに、すごいと思います。わたしが家に帰ってから洗たく物を取り込んでたたんでいますが、高い所にほしてあるので、手が届きにくい大変さと、どうたたんだらいいのかという大変さがあります。

また、お母さんは、仕事と家事をこなして、さらに、わたしと妹の面どうもみてくれていて、本当に大変だなと思います。だから、わたしは進んで家事を手伝い、少しでもお母さんを楽にしてあげたいとますます思うようになりました。だから、感謝の気持ちを伝え、お母さんにこれからもがんばってもらいたいです。わたしは、今、週に一回、わたしと妹でできる家事を全て手伝い、お母さんを楽にしてあげたいと思っています。それが実現したらいいなと思っています。

お母さんが家事をすることなど当たり前だ。仕事は自分で勝手にしているんじゃないか、と思う人もいるかもしれません。しかし、想像してみてください。自分一人で家事を全てできるのかということを。今のあなたにできますか。できるという人もいるでしょう。しかし、仕事をしないと食べていくことができません。だから、仕事と家事を全て一人でやるということです。今のあなたにできますか。自分一人の分ならできるかもしれません。でも、お母さんは、わたしたち子どもの分も洗たく、食事づくりをしてくれています。これを一人でやれと言われると、わたしだったらできません。できてもとても大変になります。

みなさんもそうではないかと考えます。

これからは、お母さんがとても大変な思いをしていることを分かり、感謝の気持ちを伝えたいです。また、家の手伝いを進んでして、少しでもお母さんを楽にしてあげたいと思っています。みなさんも、このようなことを考えてみるとよいと思います。



地域の人にありがとう

駄知小学校　六年　　塚本　心音

「ありがとう」

私はこの言葉を言われるとうれしくて笑顔になります。

この言葉は言った人も言われた人もやさしい気持ちになるまほうの言葉だと思います。みなさんは、地域の挨拶ボランティアの人達に、「ありがとう。」と伝えたことはありますか？私は、いつも思ってはいるけれど、なかなか声に出して最初は伝えられていませんでした。いつも横断歩道の前で、私達の登下校の見守りをしてくれている地域の方や『あいさつデー』に学校の玄関に立ってあいさつをしてくださる方に感謝の気持ちを伝えたいな、と思いました。

そう強く思ったきっかけは学校でやった「ありがとうの会」です。ありがとうの会とは、いつもお世話になっている地域の人を学校に招き、それぞれの学級でさまざまな形でお礼を伝える会です。私のクラスは、たけのこほりの体験をさせてもらった方をお招きし、お手紙を渡したり歌を聞いてもらったりしました。ありがとうの会は大成功でした。

「みなさんから元気をもらえ、こちらこそ、ありがとう。」と言われました。うれしかったです。

よく考えてみれば、登校ボランティアの方々は暑い日も雨の日も、雪の降る寒い日も毎日欠かさず緑のベストを着てニコニコして通学路に立っていて下さいます。下校の時に、緑のベストの見守りボランティアの方々を見つけるとなんだかホッとします。そして「おかえり！家まで気を付けて帰りゃあよ。」と見送って下さると、何だか心が温かくなります。地域の見守りボランティアの方々のおかげで、私達は安全に、安心して登下校ができる人だなと思いました。

その他にも、駄知小は、私達のためにと、たくさんの物を寄付して下さる地域の方がみえます。例えば、コロナで私達がマスク生活で学校生活に規制があり思う様に行事や生活ができない時には、運動会のテント、空気清じょうき、大型モニターなどを届けて下さいました。また、毎年私達の好きそうな本をたくさん寄付して下さる方もあります。新しい本が入ると、全校みんなで代わる代わる読みます。笑顔がたくさん増え、図書館へ行きたくなります。また、私達六年生は地域の方の力を借りて「ふるさと探検」に出かけます。一時間目から四時間目まで六つのグループに分かれ地域のくわしい説明を聞きながら、実際に駄知町の歴史について学ぶそうです。私は今からとても楽しみにしています。

このように、たくさんの地域の方々が支えてくれているおかげで学びやすい環境があり、安心して生活できていることに気付くことができました。私は六年生になり、生活・なかよし委員になりました。「あいさつボランティア」の方と一緒に、児童玄関であいさつをする時もあります。「おはようございます。」と言うと、元気に返してくれる子もいるけど恥ずかしいのか返事がないときもあります。そんな時、さみしいな、と思いました。地域の方も同じ気持ちだと思います。そこで、六年生としてまた、委員の一人として全校にあいさつを呼びかけていきたいと思います。また、学校だけでなく、駄知町全体が笑顔のあいさつがあふれる街になるとすてきだな、と考えます。

最後にこれからは、まよわず地域の支えてくださる方々に伝えたいです。「おはようございます。」そして、「いつもありがとうございます。」と。

絆で創る防災

駄知中学校三年　野々村（ののむら）　美星（みほし）

皆さんは、どんな社会に希望を持ちますか。私は、自然と向き合い共に生き続けられる社会に希望を持ちます。「自然と向き合う」とは、自然について知ろうとする意欲をもち、学んだ知識を生活に生かすことだと思います。そしてそれが、後に私たちの生活や命を守ることにつながるのです。

「地震です！」

突然、皆のスマホから一斉に、焦燥感を煽る警報音が鳴り響きました。今年の元旦、祖母の家で団欒の時間を過ごしていたときのことです。自分が経験した中でも大きく、長い時間の揺れが一帯を襲いました。揺れる花瓶と中の水。ガラス窓。その窓の外で大きく揺れる木々に、「自然」と言うものの強大さを感じました。私は突然起きた地震に恐怖を抱き、その場から動くことができませんでした。

以降、ニュースで繰り返し伝えられる言葉や、ＳＮＳで流れてくる被害の様子から、自然は癒しだけでなく、害も与えることを再認識しました。そこで私は自然災害について調べてみることにしました。

自然災害には、火山災害、風水害、斜面災害、雪氷災害、そして地震災害の五つの種類があり、その中で最も起こりやすい災害が地震災害です。地震が引き起こす災害にも、様々な種類があります。これらの災害から自分や周りの人を守るためには、いつどのくらいの規模で起こるか分からないからこそ、普段からの備えが大切になる、と言うことがわかりました。例えば、防災グッズの準備、必要な分の食料の備蓄、他には自分の地域にある避難場所や危険な箇所などを知ることです。いざと言う時に動けるように家族と話し合いをしておくことも大切であることがわかりました。

そして、皆さんは「共助」という言葉を知っていますか？共助とは、地域の人たちが協力して助け合うことを指します。祖母は、地震が起きた際、「みんなが来てくれていてよかった」と言いました。一人で暮らしている祖母には一緒に避難ができる家族が近くにいません。そんな高齢の方や、避難のためにすぐに動くことが難しい人が、他にもたくさんいると思います。そのため、日ごろから自分の地域に目を向け、挨拶を交わすなどして、地域の人たちと顔の見える関係づくりをすることも大切なのです。

しかし、さらに調べ進めていくうちに、思いもよらぬ言葉が私の目に止まりました。それは「ニュースのアナウンサーの声が大げさすぎる」「これくらい、大丈夫でしょう」といったネットの声でした。私は「これくらいの揺れは大丈夫」「報道は大げさだ」と言う意識を「万が一…」に変えることも防災の一つになると考えます。「これくらい」と見ていたものが、実際はそれよりも何倍も「大きなもの」で、それによって大切なものや人を失ってしまうのは、とても辛いことだからです。一見「大げさ」に見える備えが、後に私たちの身を守ることにつながるのです。

私は自ら調べたことで得た知識や経験をもとに、いつ起こるか知り得ない災害から身を守るため、防災グッズの確認や必要な量の食料や水の調達を、家族と一緒に行いました。そして地域の人との関わりを大切にするために、コミュニケーションを取ったり、出会った人には自分から挨拶をしたりするよう心がけています。「いつか備えよう」を「今から備えよう」に変えて、普段の生活の中でできることを、一緒に探していきませんか。

音楽の楽しさ

駄知中学校三年　宮嶋（みやじま）　咲莱（さら）

中学校に入学してから、私は吹奏楽部に入部しました。そこで音楽の楽しさを学び、音楽への意識が変わりました。また、仲間の大切さにも気づくことができました。

音楽との最初の出会いは、私が小学校一年生の頃でした。ピアノを弾いている先生に憧れ、ピアノ教室に通い始めました。ピアノを弾いているときの楽しさがきっかけとなり、私はその時から音楽が大好きになりました。

その後、「音楽が好き」という思いから、中学校の部活では「吹奏楽部に入りたい」という思いが生まれました。入部後、私は楽器を選ぶときにアルトサックスを選びました。この楽器は様々なところで見かけてきたので、有名な楽器だと思いました。そして主旋律を担当することが多いと思ったからです。しかし、楽器のオーディションには合格しましたが、渡された楽器はバリトンサックスでした。そしてバリトンサックスは低音楽器であり、主旋律はありませんでした。それでも一年生の時は「頑張れば二年生になってアルトサックスで主旋律を吹ける日が来る」という気持ちで頑張りました。二年生に進級し、アルトサックスを演奏することができるようになりました。私はワクワクした気持ちでいっぱいでした。しかし、夏のコンクールで渡された楽譜には、主旋律が少なく、やる気が起こりませんでした。一方で、後輩が主旋律の多い楽譜を持っていたことに対して、私は不公平さを感じました。私は一年生の時に主旋律が少なくても頑張ってきたのに、入部直後に主旋律を演奏できるのはずるいと思ったからです。そんなことを考えて取り組んだコンクールの結果は、私にとってあまりいいものではありませんでした。

コンクール後、ある日先生が言った言葉が私の心に残りました。「吹奏楽は主旋律とそれを支える人で成り立つものだ」という言葉です。これと思います。皆さんも、仲間を大切にし、共に生活し、人生を楽しんでいきましょう。

を聞いたとき、私は、はっとしました。ピアノは個人で演奏するものであり、吹奏楽はチームで演奏するものだという違いに気づきました。吹奏楽は、主旋律を演奏する人と、それを支える人とが協力して成り立つものなのです。そして、これこそが吹奏楽の良さなのだと気づきました。この日から、私は自分に任せられた旋律を楽しめるようになりました。主旋律でない部分では、他の人の旋律を支える意識で演奏しました。この意識の変化により、演奏が楽しくなり、より良い音楽を作り出せるようになりました。本当にうれしかったことを覚えています。

別のコンクールでは、難しい連符があり、時には挫折しそうになることもありました。しかし、同じ難所を乗り越えようとする仲間が「ここ難しいよね、本番でできるように頑張ろうね」と励ましてくれました。仲間との励まし合いや協力が、私やみんなのやる気を高めるのだと実感しました。

現在、私は吹奏楽部の部長を務めています。部員の仲間たちが「みんなで作る吹奏楽部の音楽は楽しい」と感じられるよう、部長として努力しています。二年生のコンクールの結果を超えられるように、中学校最後のコンクールでは、日々を大切にし、チームプレイを意識しながら、金賞を目指して全力で取り組みたいと思っています。

吹奏楽を通して、私は音楽の多様性と楽しさに気づきました。残り少ない部活の時間を、仲間との時間を大切に過ごしたいと思っています。この気づきは、吹奏楽に限らず、他の様々な場面でも役に立つと私は考えています。例えば私たち中学三年生は入試という大きな試練に直面します。勉強が厳しく、時には挫折することもあるかもしれませんが、仲間と励まし合い、一緒に取り組んでいくことで、乗り越えていける。

高齢者を笑顔にするために

駄知中学校三年　濱田（はまだ）　宙良（そら）

皆さん、高齢者の方を助けたいと考えたことはありますか。僕は、その中でも特に一人暮らしの方や働けなくなった方、そしてホームレスの方々に手を差し伸べることができたらと思っています。ホームレスとは住む場所をもたず野外で生活している人々のことです。このような高齢者の方を見ると、僕は胸が痛みます。だからこそ僕は、高齢者の方が安全で安心して暮らせるように何ができるかを考えました。助けを求めている高齢者の方や、苦しい生活を送る高齢者の方に笑顔を取り戻してほしいということが僕の主張です。

僕が高齢者の方を助けたいと思った理由は二つあります。一つ目の理由は、ある夏の日、僕の近所で一人暮らしをしていたおばあさんが熱中症で亡くなっていたという出来事です。その事実を知った僕は最初「自分とは関係ないことだ」と思っていましたが、自分の身内にも一人暮らしをしている高齢者がいることに気付き、もし同じようなことがあったら泣きたいくらい悲しいことだと思いました。なぜなら、僕のおじいちゃんも同様の境遇で亡くなったからです。当時、おじいちゃんは癌の治療で入院していましたが、ある日突然亡くなりました。その時僕は、お別れもできずに人が亡くなってしまうことは、とても悲しくてたまらないことだと知りました。だからこそ僕は、今後このような悲しい亡くなり方をする高齢者の方を一人でも増やしたくないし、このような悲劇が起きないよう、高齢者の方を一人でも多く救いたいと思いました。

二つ目の理由は、ホームレスの高齢者を助ける動画を見たからです。そこでは、高齢者の方とは縁のない人が温かい食事をふるまっていました。その動画を見て、僕は心がほっとしました。温かい食事を受け取る高齢者たちはみんな笑顔で、とても喜んでいたからです。僕は人々の心を動かすものは、温かい食事であると感じました。そのため、全国で温かい食事を提供する取り組みが今よりももっと増えるといいと考えました。

これらの現状を解決するために、僕が取り組むべきことは二つあります。

まずは、現在の社会問題に対する知識を、今以上に身につけることです。少子高齢化や、自分の地域に住む高齢者について学び、高齢者の方を支援するための架け橋になるために知識が必要だと考えました。

次に取り組むことは、募金活動を行うことです。たまにスーパーなどで少子高齢化のための募金ボックスを見かけます。少額の寄付でも、多くの人々が協力すれば大きな力になると思います。

支援を必要としている高齢者の方は世界中にたくさんいると思います。そんな高齢者を助けることができるのは、今元気に生きている僕たち若者なのではないでしょうか。僕たちができることは、募金活動や勉強だけではありません。例えば、通りすがりの高齢者が重い荷物を持っていたら手を差し伸べたり、横断歩道を渡る手助けをしたりするなど、些細な行動も大切だと思います。僕と同じ考えの人が増えれば、笑顔の高齢者も、もっと増えるはずです。

現在、日本は少子高齢化が進んでいます。先日、昭和三十年から高齢者数が七倍に増え、一方で子供の数は年々五分の一ずつ減少しているというニュースを目にしました。未来の子供たちや高齢者の方たちが安心して生活できるよう、今何ができるかを考えて、少しでも行動に移すことがとても重要だと、僕は思います。

駄知青少年育成会